

大阪市立大学改革プラン(概要)～学長のリーダーシップのもとで戦略的で一体的な大学運営による新しい公立大学の実現をめざす～

大学を取り巻く現状・課題等

日本の大学の情勢・課題

現状 少子化による大学間競争の激化、海外への留学生数の減少、研究者・管理職の博士号取得割合の低さ等

求められる役割

世界で活躍するグローバル人材、経済成長の種となるイノベーション創出を担う人材の育成

課題 社会の求める人材ニーズに対応していない、社会人学生・留学生の割合が低く、人材の流動性を促す仕組みが不十分、研究で世界と戦える大学が少ない等

☆大学への提言

中教審「大学のガバナンス改革の推進について」の提言

学長のリーダーシップの確立、学長・学部長選考方法等の改革、教授会の役割明確化等

新大学構想会議「ガバナンス改革について」の提言

経営組織・教学組織の分離、学外の知見、経営ノウハウの導入、教員採用等のプロセスと人事管理等

市立大学のこれまでの主な改革

人事委員会の設置、学長・研究科長の選考方法見直し、学長裁量経費・戦略的研究経費確保、学生サポートセンター設置等

これまでの改革の総括

- ・これまでの市大独自の取り組みは、大学として組織の権能と責任を果たす上での基盤的事項も多い。
- ・教職員の意欲向上を図ることが課題
- ・戦略策定等の全学的な企画機能の充実強化が必要

市大が社会の要請に柔軟に対応し、さらに戦略的かつ迅速に取り組むには、新たな仕組みづくりが必要

さらなる改革の推進

改革の視点

- 改革の目的は大学の発展
- 改革の推進は大学が自主的、一体的に
- 大学組織の特徴を踏まえる

大学執行体制の改革
(法人経営と大学執行体制の役割等の整理)

目標管理と評価
(効果的なPDCAシステムの推進)

学長の戦略機能強化
(学長の補佐機関「教育研究戦略機構」の設置等)

教員人事制度の改革
(人事戦略会議設置、教員評価制度改革等)

研究科長等の権限と責任の明確化
(研究科長等の権限と責任の整理、教授会の審議事項の整理)

職員力強化
(教職協働のための大学専門職の育成等)

教員組織の改革
(教育組織と教員組織の分離)

医学部附属病院の運営機能強化
(病院長のガバナンス強化等)

今後の戦略・取組み

国際標準に見合うより質の高い学位プログラムの制度構築

グローバル人材育成の戦略的推進

各種分析に基づいた効果的な入試制度の改革

国際学術交流や国際拠点活動の充実

地域貢献活動の強化

学生支援の充実

市大ブランド戦略の強化

☆今後の2年間において、この改革プラン実現に向けた取組みを進める。

学長の教育・研究における戦略推進体制(イメージ図)

